

formosusとはラテン語で「美」を意味します。古代ローマに造られた建築の美しさを表現したものです。東北の豊かで美しい自然を生かした社会資本整備には「用・強・美」が必要であり、集大成された「美」を追求していきたいとの思いで本誌のタイトルにしています。

国土交通省 東北技術事務所 電子広報誌 Web formosus(フォルモス)発行事務局 発行2018.5.25



## 6月6日・7日開催!



## 目次

	ページ
◆ 「建設技術公開 EE東北'18」を開催します	2～
◇ 多賀城高校で災害に関する特別授業を行いました	5～
◆ 平成30年度「東北土木技術人材育成協議会」活動計画、開催予定	6～
◇ “見て、触れて、考える”～体験型土木構造物実習の紹介とH29開催状況報告～	9～
◆ 災害対策用機械の紹介(水中探査装置)	12～
◇ 護岸用コンクリートブロック張モデルを展示	13～
◆ 新たな雪底処理車の現場適応性試験を実施	14～
◇ 新技術活用関連情報～NETIS登録技術の紹介～	15～
◆ 東北技術事務所の各課業務内容、あとがき	17～

# 「建設技術公開 E E 東北' 1 8」の概要



## ○ 名 称 建設技術公開 E E 東北' 1 8

E Eとは、英語の Engineering Exhibition (エンジニアリング・エキジビション) の略で、新技術を広く公開するという意味が込められています。

## ○ 開催日時

平成30年6月6日(水) 10:00~16:30

平成30年6月7日(木) 9:30~16:00

## ○ 開催場所

夢メッセみやぎ(宮城県仙台市宮城野区港3-1-7) 本館展示棟、本館会議棟、西館他

## ○ 目的

建設事業に係わる新技術、新工法、新材料、その他時代のニーズに対応して開発された技術を公開し、その普及を図ることにより、さらに新たな技術開発の促進と良質な社会資本の整備を通じて、社会に寄与することを目的として開催します。

## ○ キャッチコピー “広げよう新技術 つなげよう未来へ”

## ○ 入 場 料 無料

## ○ 来場予定者 国及び地方公共団体職員、建設コンサルタント、建設会社、建設資材関連会社 大学生、高校生、一般等

## ○ 実施内容

内 容	開催月日		開催場所
開会式 ・開会宣言、あいさつ、来賓祝辞、 テープカット	平成30年6月6日(水)	10:00~10:20	・本館展示棟 コンコース(受付前)
新技術展示会 ・出展者数 295者(社) ・出展技術数 889技術	平成30年6月6日(水)	10:00~16:30	・本館展示棟 ・屋外展示場
	平成30年6月7日(木)	9:30~16:00	
新技術プレゼンテーション ・64題	平成30年6月6日(水)	11:00~15:00	・本館会議棟 大ホール(A、B)
	平成30年6月7日(木)	11:00~15:00	
UAV(ドローン)競技会 ・総合技術部門 ・一般参加部門 ・FPV実演	平成30年6月7日(木)	9:30~16:00	・西館
特設コーナー ・大学研究室の展示 ・学生向け出展企業紹介コーナー ・高校生橋梁模型作品発表会 入賞作品展示 ・技術パネル展示	平成30年6月6日(水)	10:00~16:30	・本館展示棟 コンコース
	平成30年6月7日(木)	9:30~16:00	



ENGINEERING

EXHIBITION

— 建設技術公開 —

# EE東北'18

## 最新の建設技術を大公開!! 広げよう新技術 つなげよう未来へ



**入場無料**  
どなたでも  
ご覧いただけます

### 6/6 水 10:00 ~ 16:30 7 木 9:30 ~ 16:00

会場 **夢メッセみやぎ** 仙台市宮城野区港3丁目1-7 **無料シャトルバス運行**

<b>新技術展示会</b>	<b>新技術 プレゼンテーション</b>	<b>UAV (ドローン) 競技会</b> ※6/7(木)のみ	<b>特設コーナー</b>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学研究室の展示</li> <li>●学生向け出展企業紹介コーナー</li> <li>●高校生橋梁模型作品発表会入賞作品展示</li> <li>●技術パネル展示</li> </ul>

継続学習制度 (CPDS) 認定プログラム [(一社) 全国土木施工管理技士会連合会認定]

■主催 / EE東北実行委員会 (委員長: 東北地方整備局 企画部長)

■構成団体 / (一社) 日本建設業連合会東北支部、(一社) 日本道路建設業協会東北支部、東北建設業協会連合会、(一社) 日本建設機械施工協会東北支部、(一社) 東北コンクリート製品協会、(一社) 全国特定法面保護協会東北地方支部、(一社) 東北地域づくり協会、(一社) 日本埋立浚渫協会東北支部、(一社) 建設電気技術協会東北支部、(一社) 建設コンサルタント協会東北支部、東北地方整備局、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市、東日本高速道路(株)東北支社

■後援 / (公社) 土木学会東北支部、(一財) 日本建設情報総合センター、(一財) 先端建設技術センター、(一社) 河北新報社、日刊建設工業新聞社東北支社、(株) 日刊建設通信新聞社、日刊建設産業新聞社、(株) 建設新聞社、(株) 日本建設新聞社仙台総局

★ホームページはこちら

お問い合わせ: EE東北実行委員会事務局 〒985-0842 宮城県多賀城市桜木3丁目6番1号 東北技術事務所 TEL.022(365)8047



## 新技術展示会

5技術分野に889の建設技術が大集結。

■本館展示棟、屋外展示場 ●6/6(水) 10:00~16:30 ●6/7(木) 9:30~16:00



設計・施工  
324技術



維持管理・予防保全  
290技術



建設副産物・リサイクル  
22技術



防災・安全  
198技術



その他共通  
55技術

計 889技術

## 新技術プレゼンテーション

新技術展示会出展技術の中から、64技術のプレゼンテーションを実施。

■本館会議棟大ホール

Aホール・Bホール(2会場で開催)

●6/6(水)・7(木) 11:00~15:00

## UAV(ドローン) 競技会

マルチロータヘリコプターを使って空撮、計測技術を競います。

■西館 ●6/7(木) 9:30~16:00

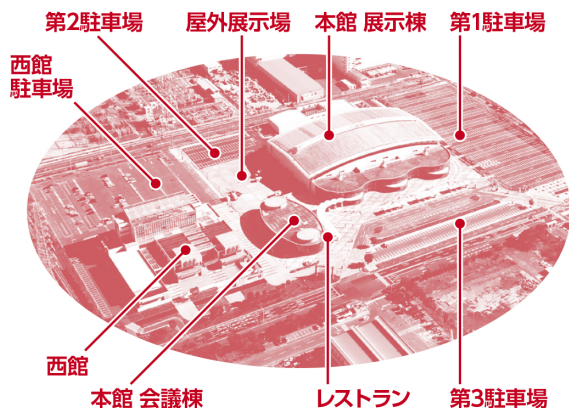
### [総合技術部門]

実技と計測結果プレゼンテーションにより飛行操縦と計測技術(空撮測量)を競う部門です。

### [一般参加部門]

実技により空撮技術と飛行操作技術を競う部門です。

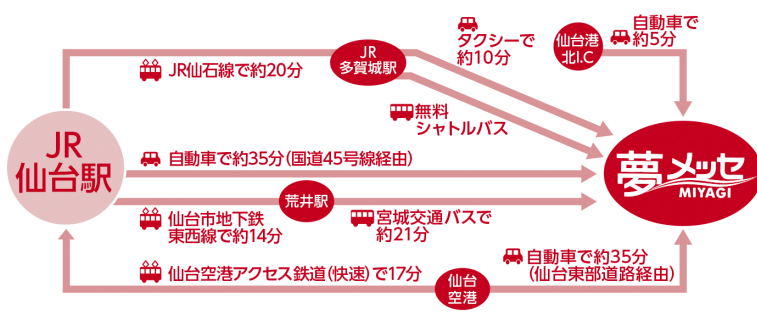
## 会場のご案内



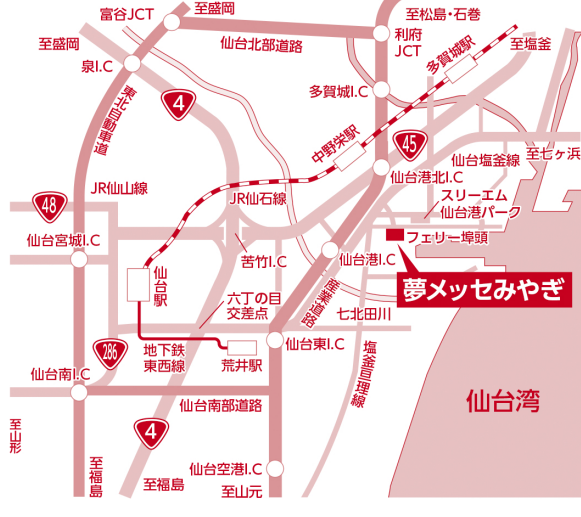
## 会場までのアクセス方法

### [JR仙石線 多賀城駅~会場間、無料シャトルバス運行]

- JR多賀城駅~会場間を8時10分から20分間隔で運行します。詳しい時刻表はホームページでご確認ください。
- 駐車場に限りがありますので、ご来場の際は公共交通機関、シャトルバスをご利用ください。



## 交通のご案内





# 多賀城高校で災害に関する特別授業を行いました

H30.5.17(金)

宮城県多賀城高校災害科学科3年生の授業の一環として、東北技術事務所による特別授業を行いました(講師(機械)副所長)。多賀城高校には、H28年度から全国で2校目となる防災・減災・環境等を専門的に学ぶ「災害科学科」が設定されている高校です。

当日は、「災害と国土」と題して、東日本大震災における東北地方整備局の活動記録の他、復興に向けた取り組み、水害対策について、実際の津波の映像も交えた授業を行いました。その後、所長他3名がサポートに入り、グループごとに「災害から命を守るための行動」をテーマに各班で議論したことを発表しました。各班が着目する災害(津波・水害・火山など)について、熱心に意見・アイデアを出しながら活発な議論となり、講師側にもとても参考になりました。

この多賀城高校での特別授業は、昨年度3月にも「風水害から命を守るために」と題して普通科の地理の授業として実施しており、災害時の対応や減災に対する取り組みを説明し、2回目の実施となります。

## 特別授業の様子



## グループワーク



## 各班の発表状況



## 前回実施状況(H30.3) 普通科2年生 講師:東北技術事務所長

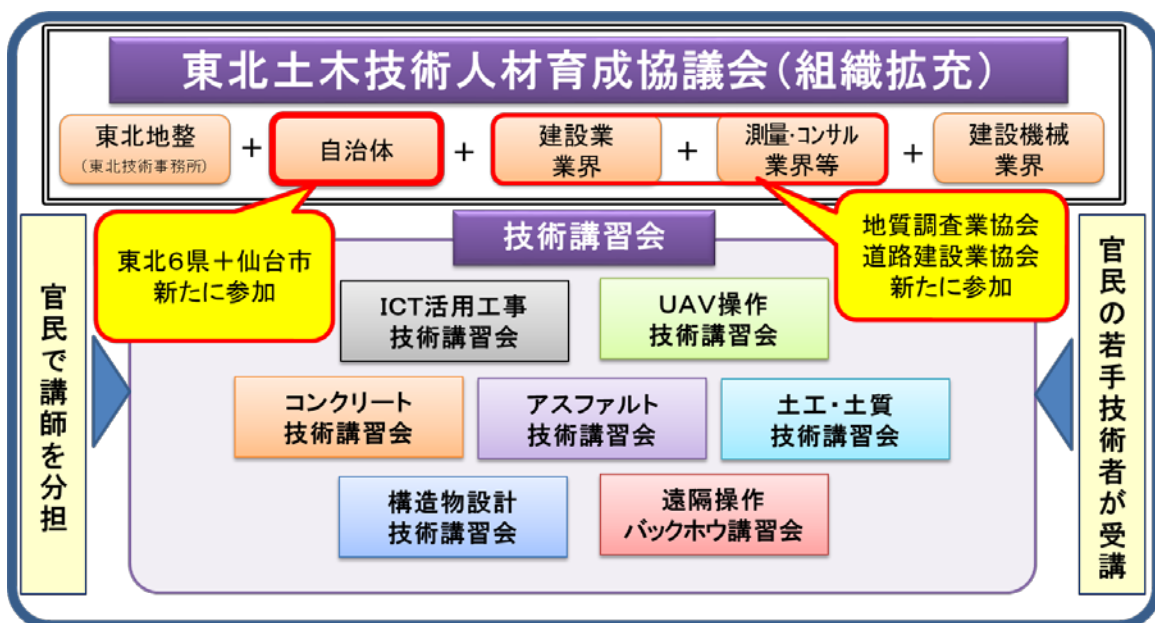




# ～産官共同で若手技術者を育成～ 平成30年度 「東北土木技術人材育成協議会」活動計画

平成29年3月1日に国土交通省東北地方整備局、建設業協会(日本建設業協会東北支部、東北建設業連合会)、測量・コンサル業界(東北測量設計協会、建設コンサルタンツ協会東北支部)、建設機械業界(日本建設機械施工協会)の6団体による「東北土木技術人材育成協議会」を発足しました。

平成30年3月1日に、地方公共団体(東北6県、仙台市)、東北地質業協会及び日本道路建設業協会東北支部を含めて15団体に組織が拡大されました。



## 本協議会設立の趣旨

- ◆ 長期にわたり利用される社会資本は、高品質・高耐久性とすることが求められる。
- ◆ 社会資本は、生活や経済活動などを行う上で重要な役割を担う。
- ◆ 良好な社会資本の整備・維持管理のための専門分野は多岐にわたり、施工・監督・検査などには幅広い知識が必要。
- ◆ さらにi-Constructionをはじめとする、新たな技術に関する多様な知識が求められる。
- ◆ 将来を担う若手技術者に対しては、早い段階で知識と技術の養成に資する講習を行う必要がある。
- ◆ 各団体が協力・連携をすることで、より総合的な知識と技術力の教授が可能となる。



## 平成29年度開催状況

◆391名の皆さんが受講されました。



土工技術講習会



コンクリート  
技術講習会



構造物設計技術講習会



アスファルト  
技術講習会



ICT技術講習会



UAV技術講習会



遠隔操作  
バックホウ講習会

講習名	受講生		
	計	産	官
土工技術講習会	82名	40名	42名
構造物設計技術講習会	78名	36名	42名
コンクリート技術講習会	87名	51名	36名
アスファルト技術講習会	57名	22名	35名
ICT技術講習会	31名	14名	17名
UAV技術講習会	33名	16名	17名
遠隔操作バックホウ講習会	23名	23名	0名
合計	391名	202名	189名

## 平成30年度も産官連携して、各種技術講習会を開催します。

◆平成29年度基礎技術講習会を継承し、開催回数を2回から3回とします。

◆ICT・UAV技術講習会を各県で開催します。

講習会名	開催回数	開催場所
土工技術講習会	2回⇒3回	東北技術事務所
コンクリート技術講習会	2回⇒3回	東北技術事務所
構造物設計技術講習会	2回⇒3回	東北技術事務所
アスファルト技術講習会	2回⇒3回	東北技術事務所
ICT技術講習会	<b>調 整 中</b>	座学:各県単位
UAV技術講習会		実習:調整中
遠隔操作バックホウ講習会	1回	東北技術事務所



## 【平成30年度 東北土木技術人材育成協議会 技術講習会 開催予定】

講義名	開催日
土工 技術講習会 (第1回、第2回、第3回)	【第1回】 平成30年7月2日～3日 【第2回】 平成30年9月10日～11日 【第3回】 平成30年11月26日～27日
アスファルト舗装 技術講習会 (第1回、第2回、第3回)	【第1回】 平成30年7月3日～4日 【第2回】 平成30年9月11日～12日 【第3回】 平成30年11月27日～28日
コンクリート 技術講習会 (第1回、第2回、第3回)	【第1回】 平成30年7月4日～5日 【第2回】 平成30年9月12日～13日 【第3回】 平成30年11月28日～29日
構造物設計 技術講習会 (第1回、第2回、第3回)	【第1回】 平成30年7月5日～6日 【第2回】 平成30年9月13日～14日 【第3回】 平成30年11月29日～30日
ICT基礎技術講習会 (東北6県、仙台市 各1回)	【青森】 平成30年10月26日 【秋田】 平成30年10月16日～17日 【岩手】 平成30年10月23日 【山形】 平成30年10月24日～25日 【宮城】 平成30年9月26日～27日 【福島】 平成30年10月17日～18日 【仙台】 平成30年9月27日～28日 ※2日に渡る予定は現場見学によるもの
遠隔操作バックホウ 講習会	未定

問い合わせ先 : 総括技術情報管理官 電話番号 022-365-8211  
Eメールアドレス thr-782jinzai@milt.go.jp

実物大の臨場感で

# “見て、触れて、考える”

～体験型土木構造物実習の紹介と平成29年度開催状況報告～

工事監督・検査に対応する技術の習得や施工順序、品質の良否判定等の基礎技術や判断技術を習得することを目的とした、実践的な施設で、実物大の構造物を使用した実習施設としては東北唯一のものです。

～施工順序、名称・種類、施工上の留意点を学ぶ～

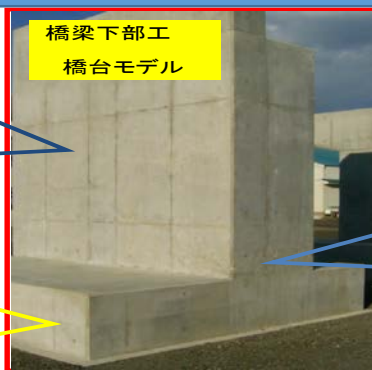


なぜこうなるのか?防止方法は?品質にどう影響があるのか?

沈降クラックの発生



橋梁下部工  
橋台モデル



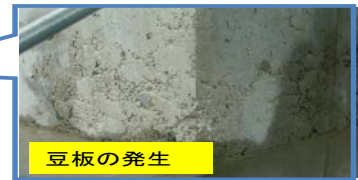
コールドジョイント



上下色の違い



豆板の発生

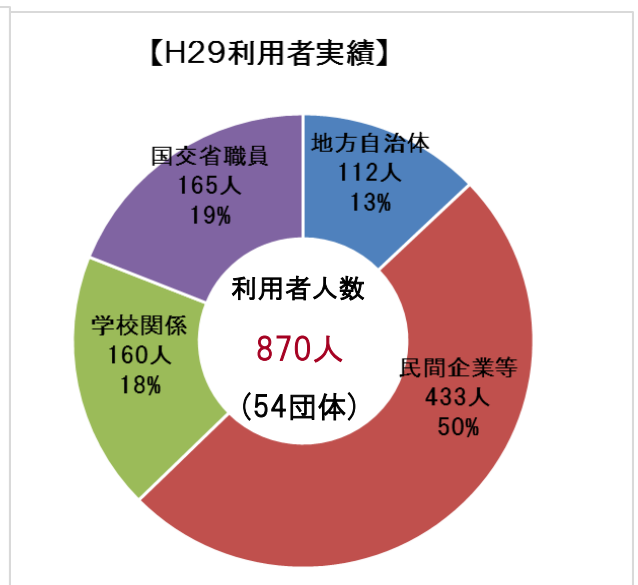
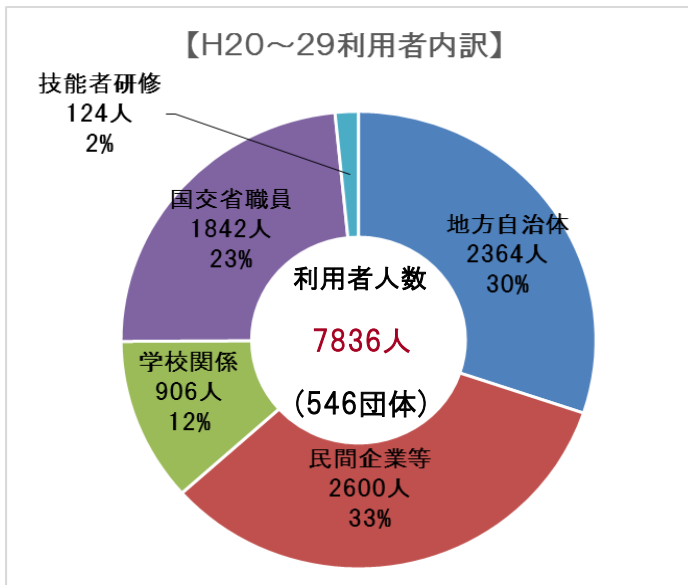
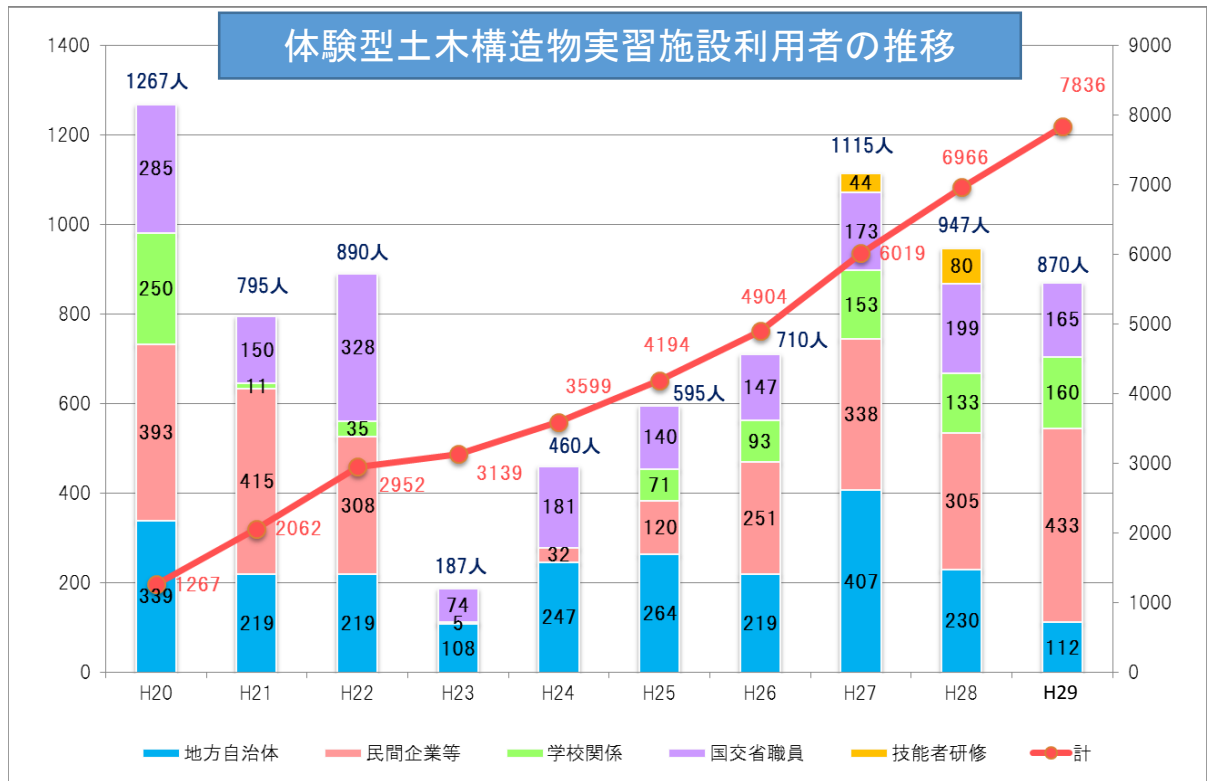


## 利用者の声

- ・コンクリートの劣化・損傷状況は実物と説明で、今まで気に留めることの少なかった施工段階のミス、手抜きなどの影響がどれだけ大きいかが再認識を致しました。(公務員)
- ・施工不良の再現があり「見て学べる、貴重な体験となった。自分が担当する工事では、施工不良を出さないだけでなく、より良い品質を目指したい。(建設業・監督者)



# 利用者まもなく、8,000人到達！



誰でも利用できます。是非ご利用ください！

# 利用申込書は、東北技術事務所のホームページからダウンロードしてください。

申込み日：平成 年 月 日

## 東北技術事務所 体験型土木構造物実習施設利用申込書

団体名			
代表者	氏名：		
	住所：		
利用目的			
希望コース	※希望する基本コース・追加オプション <input type="checkbox"/> を <input checked="" type="checkbox"/> に塗りつぶし(入力)してください。 右端に記載の時間は、講師説明の標準的な所要時間であり、相談により調整は可能です。		
	[基本コース] <input type="checkbox"/> コンクリート〔Ⅰ〕：施工管理(不適切施工) 1時間程度 <input type="checkbox"/> コンクリート〔Ⅱ〕：非破壊検査 1時間程度 [オプション] <input type="checkbox"/> コンクリート〔Ⅲ〕：表層品質と耐久性 30分程度 <input type="checkbox"/> 橋梁上部工：鋼橋・PC橋(被災・損傷) 30分程度 <input type="checkbox"/> 橋梁下部工：配筋・補修・補強 15分程度		
希望日時	※希望日は「水曜日」とし、時間帯の欄には午前(9:00～12:00)、午後(13:30～16:00)の範囲内で希望される時間を記入ください。		
	平成 年 月 日(水)	時間帯：	～
(予備日) ※記入は任意	平成 年 月 日(水)	時間帯：	～
参加予定人数	名(うち随行者 名)		
講師説明の要否	※該当する <input type="checkbox"/> を <input checked="" type="checkbox"/> に塗りつぶし(入力)してください。		
	<input type="checkbox"/> 要	<input type="checkbox"/> 不要	
参加者の技術レベル等	※参加者の土木技術に関する「経年数」や、施設利用の目的・理由などを記入ください。 「講師説明」を不要とする場合は記入不要です。		
申込み者連絡先 (随行者)	氏名：		
	メールアドレス：		
	携帯電話：		

### 体験型土木構造物実習施設のコース概要

コース名		体験実習内容
基本コース	コンクリート〔Ⅰ〕 1時間程度	【施工管理(不具合施工)】 コンクリート構造物の不適切な施工による、材料分離・豆板・コールドジョイント等の不具合事例について、発生原因や防止方法などを学習。
	コンクリート〔Ⅱ〕 1時間程度	【非破壊検査】 コンクリートの品質等の確認のための非破壊検査の方法や使用上の注意点を学習。 ・テストハンマーによるコンクリート強度の推定 ・鉄筋探査器によるコンクリート内部の鉄筋間隔等計測
オプション	コンクリート〔Ⅲ〕 30分程度	【表層品質と耐久性】 コンクリート構造物の施工の丁寧・不適切な違いによる表層品質や耐久性への影響を学習。 (透気試験・吸水速度試験・凍結融解試験等)
	橋梁上部工 (30分程度)	【鋼橋・PC橋】 東日本震災による被災橋梁及び塩害等で使用不能となった橋梁の上部工モデル(実物)により、構造形式・被災状況・劣化損傷状況を学習。 ・鋼橋：鋼箱桁、RC床版 ・PC橋：ポステンT桁、プレテン中空床版桁
	橋梁上部工 (15分程度)	【配筋・補修・補強】 橋梁下部工・杭基礎(杭頭)のモデルにより、鉄筋組立状況や補修・補強工法の概要を学習。

利用希望日の2週間前までに申請してください。

申込書は下記まで送信してください。

Eメールアドレス thr-tougi02@mlit.go.jp

ファックス番号 022-365-7969



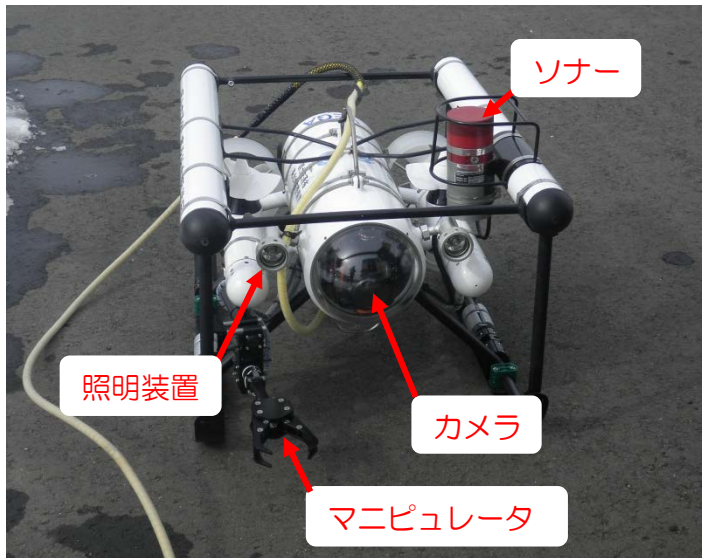
# 災害対策用機械の紹介

東北技術事務所では、河川、道路、ダム等の所轄施設に係わる災害等に対処し、防災体制の円滑な実施を図るために 各種の災害対策用機械を保有しています。

今号では、水中構造物維持管理を目的として、水門・堰・ダム・橋脚等の現状を把握し異常及び損傷を早期に発見するために使用する水中探査装置を紹介します。

## 水中探査装置の特徴

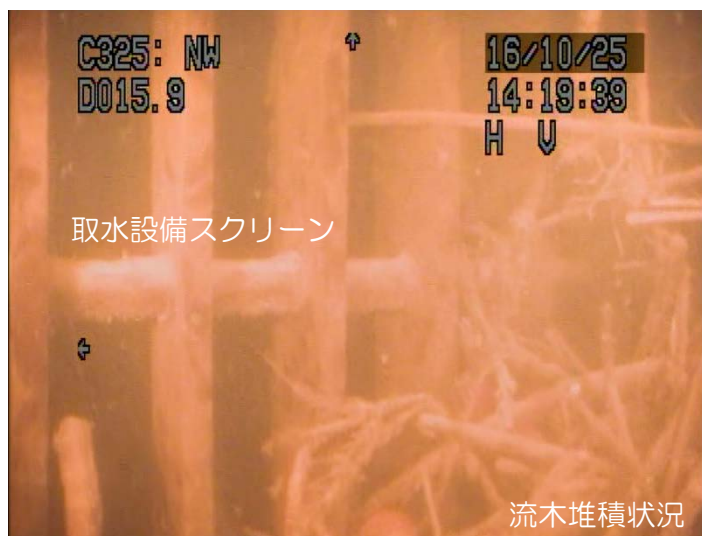
- ◆水中探査装置は陸上から遠隔操作（有線）により、140mの範囲で潜ることができます。
- ◆水中探査装置は照明付きのカメラにより、濁度10ppm程度まで鮮明な水中映像をリアルタイムで地上のモニターで確認・録画することができます。
- ◆マニピュレータと呼ばれるロボットアームにより、小形の対象物を回収可能です。



水中探査装置（本体前部）



水中探査装置操作状況



取水設備スクリーン

流木堆積状況

出動状況：ダム湖での撮影画像（水深15.9m）

## ◆水中探査装置諸元

導入年度	平成20年度
使用条件	最大水深 140m 波高 1.5m以下 流速0.45m/s以下 濁度 10ppm
探査装置本体重量	33kg
推進機(スラスタ)	250W(水平2基・垂直2基)
速度(静水時)	前進2.8ノット
ビデオカメラ	制御範囲 上下左右に±55° 画素数 38万画素 ズーム 光学10倍
水中ランプ	ハロゲンランプ150W×2灯
音響ソナー	計測範囲 半径200m 360°
操作方式	遠隔操作(有線) ケーブル長140m
機器寸法	L840mm×W615mm×H505mm

# 護岸用コンクリートブロック張モデルを展示

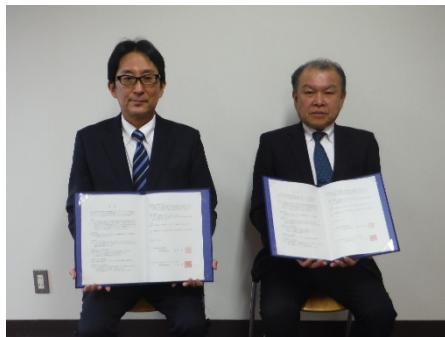
## ～東技と全国土木コンクリートブロック協会が覚書を締結～

東北技術事務所では実物大の体験型土木構造物実習施設を活用した若手技術者の人材育成に取り組んでおります。

平成30年3月16日に全国土木コンクリートブロック協会東北地区協議会と東北技術事務所  
で覚書を締結し、河川の護岸設計、工事監督及び  
検査時の基礎技術を習得する教材として、

「河川の護岸用コンクリートブロック張の構造モデル」  
を東北技術事務所構内に展示することとなりました。

整備は今年度中の実施予定となっております。



全国土木コンクリートブロック協会東北地区協議会  
と東北技術事務所長による覚書締結

### 東北技術事務所 位置図

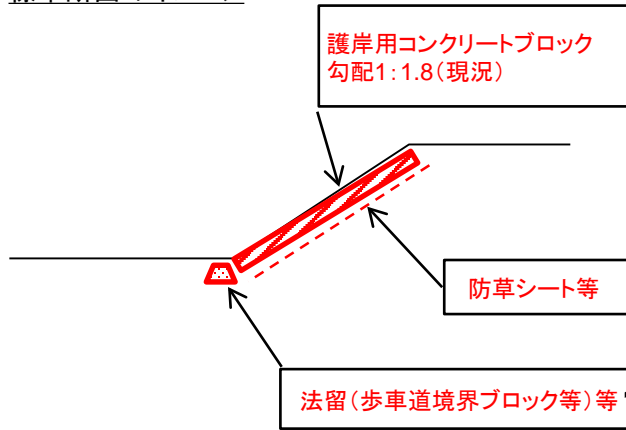


### 護岸用コンクリートブロックとは？

護岸とは、川を流れる水の作用(侵食作用など)から河岸や堤防を守るために、流れる水があたる斜面に設けられる施設のことです。

河岸や堤防の斜面部を守るためのコンクリートブロックを護岸用コンクリートブロックと呼びます。

### 標準断面のイメージ





# 新たな雪庇処理車の現場適応性試験を実施

## 1. 現状と目的

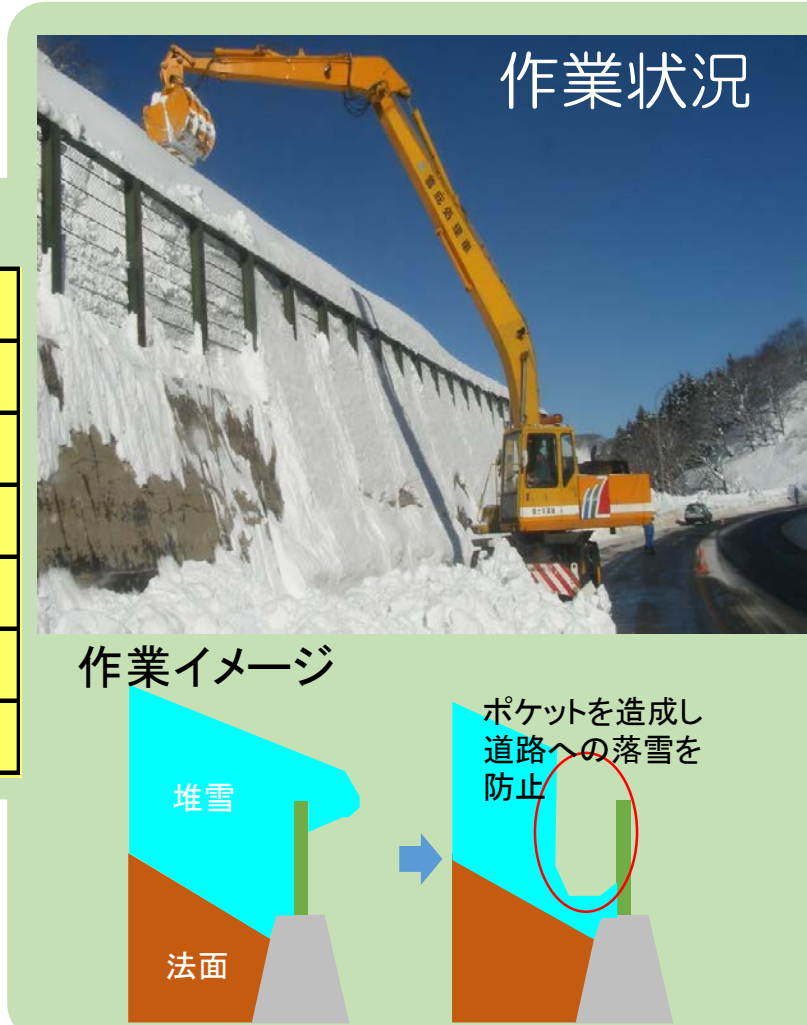
東北地整では、豪雪地域の冬季の道路交通確保のため「雪庇処理車」を導入し雪庇処理作業を行っているが、機械の老朽化が著しく早期の更新が望まれている。

現場間の移動やなだれ発生時の機動性を考慮し、ベース車両を現行同様ホイール式バックホウ（ロングリーチ式）が必要となるが、国内メーカーでは排ガス規制対応車両の製造がされていなく、更新に苦慮している状況である。

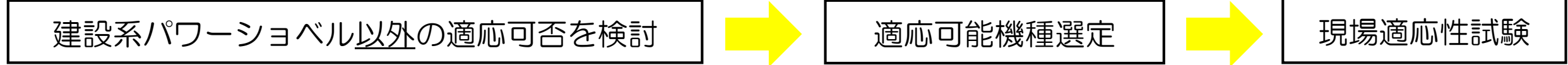
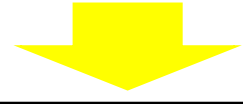
（国内建機メーカーに今後の動向を確認した結果、今後も排ガス規制をクリアする機械の製造予定なし）

東北地整 雪庇処理車配備状況

事務所	出張所	工区	年式
酒田	月山国道維持	月山第1	H 7
		月山第2	H13
山形	寒河江国道維持	寒河江西 (R112)	H 9
	米沢国道維持	米沢西 (R113)	H14
郡山国道	会津若松	西会津	H16
			5台



そのため東北技術事務所では早期更新を目指して、新たな雪庇処理車の検討を行った。



## 2. 現場適応性試験結果



運転席がリフトアップすることで施工箇所と同じ目線で作業ができ、オペレータの苦渋性解消が可能となった

バケットは市販品を改良して使用した（既存機械は独自に開発した専用バケットであった）

既存機械がアウトリガ2本であったが、4本装備しており、安定作業が可能となった

国道112号試験状況

国道112号 能力試験結果 (m3/h)

	旧型	新型
作業量	238.2	173.9
新型/旧型-1*100		△ 27%

新型の能力が27%劣る



この現場はダンプに直接積み込みをしているが、バケットサイズは適当であった

運転席のリフトアップは施工箇所に合わせて自由に設定できる

国道49号試験状況

国道49号 能力試験結果 (m3/h)

	旧型	新型
作業量	213.4	213.3
新型/旧型-1*100		0%

新型、旧型の能力は同等

国道112号では新型機の作業能力が劣る結果となった。旧型機と同等の能力を確保するためには、試験時のバケットの容量を大きくし、能力のUPを図る必要がある。

## 3. まとめ

他分野で活用されている建設機械が雪庇処理作業において実用性が十分あるということが確認できた。同機械が当地整内に配備されることで雪庇処理作業による冬期交通確保に寄与することを期待するものである。



## 東北で登録されたNETIS登録技術



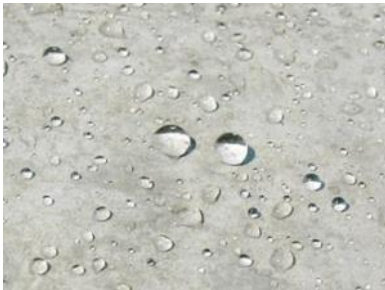
新技術情報提供システム＝NETIS（**N**ew **T**echnology **I**nformation **S**ystem）は公共事業において新技術の活用を促進することを目的として、平成18年より本格運用を開始している情報データベースです。平成30年5月現在、NETIS上には2,881件の新技術が登録されています。

今回は、3月から4月の間に、東北技術事務所で登録を行った5技術について紹介します。

番号をクリックすると公式サイトで技術の詳細情報が確認できます



① 鑄心管(いしんかん)「橋梁用排水パイプ」	登録番号	TH-170015-A
床版上の滞留水排除を行う同径成形の橋梁用排水パイプである。本技術の活用により現場施工が効率化されるため、施工性の向上、工期短縮などが期待できる。		
 <p data-bbox="278 1253 552 1286">排水管パイプ埋設状態</p>	 <p data-bbox="925 1253 1039 1286">部品構成</p>	

② 変性シラン・シロキサン系含浸材『グランシール(PRO)』	登録番号	TH-180001-A
変性のシラン・シロキサン系含浸材で水性・無溶剤型の浸透性コンクリート劣化防止材である。施工面の水分測定は不要で1液材を1回塗るだけで劣化因子の水の浸入を防ぐ含浸材である。		
 <p data-bbox="215 1900 329 1933">製品荷姿</p>	 <p data-bbox="654 1900 771 1933">塗布状況</p>	 <p data-bbox="1011 1900 1283 1933">施工1日後の撥水状況</p>



③ 鋼管柱用の鋼製根巻基礎

登録番号

TH-180002-A

根入れ式鋼管柱建柱時に使用されるコンクリート製根巻基礎に代わる鋼製根巻基礎を使用した根巻基礎。コンクリート打設時の養生期間が不要となるため、施工性が向上し、工程が短縮される。



鋼管柱基礎部イメージ



施工状況

④ 速硬系ポリマーセメントモルタル「U-リペアパッチEX、U-リペアライトEX」

登録番号

TH-180003-A

アルミナセメントを含む数種類の結合材を用いた速硬系のポリマーセメントモルタルであり、早期開放及び工期短縮が望まれるコンクリート構造物の補修工事全般に使われる断面修復材である。



製品荷姿



施工前・後状況

⑤ ニューネオソーラーREVO

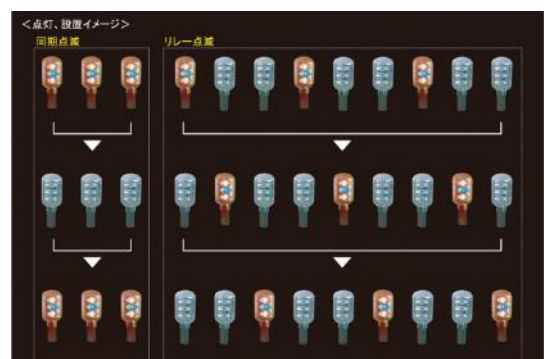
登録番号

TH-180004-A

太陽光パネルを使用した同期点灯及びリレー点灯機能によるベクション効果を発揮する点滅灯



製品外観・点灯状況



点灯パターン

新技術の登録や活用について、ご不明な点がある場合は、お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先：施工調査・技術活用課  
電話番号 022-365-7983

# 東北技術事務所の取り組みについて

## ★各課が取り組む業務内容

担当課	業務内容の紹介(抜粋)
維持管理技術課 (道路担当)	<ul style="list-style-type: none"><li>・橋梁点検・診断、路面性状調査、路面下空洞調査及び診断・判定技術力の向上及び地方自治体への技術支援</li><li>・長寿命化修繕計画作成の技術支援</li><li>・学との連携による技術開発や研究への相互協力 (学の知シーズと行政ニーズの相互関係を構築し、協働によるプロジェクト体制により技術開発・研究を進め諸課題の解決を図る)</li></ul>
品質調査課(河川担当)	<ul style="list-style-type: none"><li>・河川堤防の健全性調査・診断、データ管理、分析</li><li>・樋門・樋管詳細点検、健全度評価、データ管理、分析</li><li>・河川水質調査(精度管理)、河川微量化学物質の分析・精度管理</li><li>・学との連携による技術開発や研究への相互協力 (学の知シーズと行政ニーズの相互関係を構築し、協働によるプロジェクト体制により技術開発・研究を進め諸課題の解決を図る)</li></ul>
防災・技術課(防災担当)	<ul style="list-style-type: none"><li>・災害発生時の初動対応の緊急・機動的な支援を遂行</li><li>・災害時の緊急対応に備えた体制整備、要領・マニュアル等整備</li><li>・災害対策用機械の操作訓練(職員及び協定会社等)</li><li>・防災に関する技術開発、調査</li></ul>
施工調査・技術活用課 (機械担当)	<ul style="list-style-type: none"><li>・機械設備(排水機場、水門、樋門、ダム設備)の健全性調査・診断、データ管理、分析</li><li>・新技術情報の収集、新技術情報提供システム(NETIS)への登録</li><li>・新技術活用システム(NETIS)の活用・普及</li><li>・新技術活用支援(歩掛作成、工法選択、現場適用性検討)</li><li>・新技術の評価・新技術の現場における改善効果分析・評価</li><li>・試験施工のフォローアップ調査(データ収集、整理、分析)</li><li>・民間企業等からの新技術相談</li><li>・施工技術や建設機械に関する取組 (例)ICT技術、河川環境保全技術、建設機械類の開発等</li></ul>

## 事務局から

新年度も早いもので2ヶ月が過ぎました。4月期の異動で東北技術事務所の職員も約半数が入れ替わりりましたが、ゴールデンウィークも終わり、新たな体制での業務が本格的にスタートしたところです。5月に入りクールビズが始まりましたが、寒暖の差が大きく、5月前半までは通勤時にはコート姿の方も目立ちましたが、やっと季節らしい暖かさとなり、木々の緑も明るく見えるようになってきました。

東北技術事務所が関わる大イベント「EE東北'18」が今年も6月6日～7日に夢メッセみやぎを会場に開催されます。最新の建設技術が昨年を上回る889技術が展示されます。昨年に引き続き、新技術の展示に加え、マルチロータヘリコプターを使ってのUAV(ドローン)競技会や展示される出展新技術の中からのプレゼンもあります。皆様のご来場をお待ちしております。

また、昨年度から産官連携で取り組んでいる「東北土木技術人材育成協議会」による基礎技術講習会も新たに建設業界の2団体が加わり、7月から開催されます。業界ならびに国、県の職員の方々の受講をお待ちしております。

8月には夏休みの小学生向けイベント「夏休み2018宿題☆自由研究大作戦」にも昨年まで同様に参加を予定しております。子供たちにわかりやすく、興味を持てるプログラムを現在検討中です。

Web formosusは昨年度から東北技術事務所ホームページにおいて公開させていただいております。これまで同様に東北技術事務所が取り組む様々な業務や新技術、最新の話題等について、広く建設業界の方や一般の皆様にご紹介して参ります。Web formosusを多くの方にご覧頂き、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

今後もWeb formosusをよろしくお願いたします。 編集 T

発行元

国土交通省 東北技術事務所 Web formosus(フォルモス)発行事務局

〒985-0842 宮城県多賀城市桜木3丁目6-1 TEL022-365-8211

フォルモス事務局 品質調査課

内線 782-356 FAX 022-365-7899

E-mail : [thr-tougi02@mlit.go.jp](mailto:thr-tougi02@mlit.go.jp)

事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/index.html>